

協同組合のアイデンティティに関するICA声明

定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

原則

協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

【第1原則】自発的で開かれた組合員制

協同組合は、自発的な組織である。協同組合は、性別による、あるいは社会的・人種的・政治的・宗教的な差別を行わない。協同組合は、そのサービスを利用することができ、組合員としての責任を受け入れる意思のある全ての人々に対して開かれている。

【第2原則】組合員による民主的管理

協同組合は、その組合員により管理される民主的な組織である。組合員はその政策決定、意思決定に積極的に参加する。選出された代表として活動する男女は、組合員に責任を負う。単位協同組合では、組合員は（一人一票という）平等の議決権をもっている。他の段階の協同組合も、民主的方法によって組織される。

【第3原則】組合員の経済的参加

組合員は、協同組合の資本に公平に拠出し、それを民主的に管理する。その資本の少なくとも一部は通常協同組合の共同の財産とする。組合員は、組合員として払い込んだ出資金に対して、配当がある場合でも通常制限された率で受け取る。組合員は、剰余金を次の目的の何れか、または全てのために配布する。

- 準備金を積み立てることにより、協同組合の発展のため、その準備金の少なくとも一部は分割不可能なものとする
- 協同組合の利用高に応じた組合員への還元のため
- 組合員の承認により他の活動を支援するため

【第4原則】自治と自立

協同組合は、組合員が管理する自治的な自助組織である。協同組合は、政府を含む他の組織と取り決めを行ったり、外部から資本を調達する際には、組合員による民主的管理を保証し、協同組合の自主性を保持する条件において行う。

【第5原則】教育、訓練および広報

協同組合は、組合員、選出された代表、マネジャー、職員がその発展に効果的に貢献できるように、教育訓練を実施する。協同組合は、一般の人々、特に若い人々やオピニオンリーダーに、協同組合運動の特質と利点について知らせる。

【第6原則】協同組合間協同

協同組合は、ローカル、ナショナル、リージョナル、インターナショナルな組織を通じて協同することにより、組合員に最も効果的にサービスを提供し、協同組合運動を強化する。

【第7原則】コミュニティへの関与

協同組合は、組合員によって承認された政策を通じて、コミュニティの持続可能な発展のために活動する。

協同組合のアイデンティティに関するICA声明とは、国際協同組合同盟(ICA)が1995年のマンチェスター総会で決めた、21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す新しい協同組合の定義、価値、原則です。

サステナビリティ レポート 2025

Sustainability Report



誰もが笑顔で暮らせる社会。
あらゆる命が豊かに循環する地球。
未来のために、今、私たちにできること。



ご挨拶	03
SDGsの達成に向けて	04
2030年ビジョン(長期方針)	06
2030年ビジョン第1の柱 生活者の食と暮らしを守ること	08
2030年ビジョン第2の柱 よりよい組織(生協)をつくること	10
2030年ビジョン第3の柱 “ひらかれた生協”として、地域とつながること	12
2030年ビジョン第4の柱 「コープSDGs行動宣言」の活動を進めること	15
生協コープかごしまの概要	22

生協コープかごしま 理事長

上 城 秀 人



■今年は「戦後80年」の年にあたるとともに、国連からは2度目の「国際協同組合年」として、平和の課題も含めてさまざまなテーマに取り組む協同組合の価値をおおいに広め、発展させてほしいとの大きな期待が寄せられています。私たちは、引き続き世界的課題であるSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みを日常の事業課題、活動・運動課題として捉えています。

■2025年度も私たちを取り巻く情勢は大きく変化し、暮らしにさまざまな影響を及ぼしています。その暮らしを守るために「平和」「環境(地球温暖化)」「食料(自給率)」「社会保障(相互扶助)」の4つを大きな切り口として進めています。

■国際的な紛争と緊張状態が続いています。暮らしを守ることの基本は平和であり、平和とは何かを問いかけ、忘れないため「6.17平和のつどい」などの取り組みを創立以来、最も大切にしています。

■地球温暖化は異常気象をもたらし、農業や漁業に従事する方々や、消費者の暮らしに影響を与え続けています。地球温暖化の原因となるCO2の排出量を削減するために、節電や節水、エネルギー消費を抑えることなどの大切さを伝えるとともに、現在、新たなリサイクル活動のひとつとして、家庭から持ち寄られた、

もしくは店舗での使用済み廃食用油を、独自に精製した燃料として配達車で活用する取り組みを進めています。

■また食料の分野では、県内産品の消費拡大を進めることで、地域の自給率向上のためのフードマイレージを広げていくことも継続した課題です。

■あわせてエシカル消費(倫理的消費)の一例として、全国の生協と一緒にコープ商品を利用し、飢餓に苦しむ子どもたちの命と未来を守るユニセフを通じた活動に取り組んでいます。また商品を利用することで、枯渇する漁業資源・森林資源を守ることもつながっています。

■相互扶助の組織として人に寄り添い、地域に寄り添い、「誰一人取り残さない」社会的包摂の理念のもとで、ちょっとした暮らしのお手伝い「暮らしの助け合いの会」活動や、自治体をはじめ社会福祉協議会、自治会、福祉施設などとの連携による買い物困難地域のみなさんへの「お買い物支援」「お弁当配達」など大切な活動として継続・発展を目指しています。

このレポートをぜひ、お目通しいただき、忌憚のないご意見・ご指導をお寄せくださることのお願いを申し上げながら、発刊の言葉とさせていただきます。

SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて。

生協コープかごしまは、**持続可能な社会の実現**を目指します。

生協コープかごしまは、「よりよき生活(くらし)と平和のために」「ひとりがみんなのために みんながひとりのために」「安心して暮らし続けられる地域社会づくりのために」をスローガンとする、協同と助け合いの組織です。世界の課題を解決し、よりよい未来を迎えるために、国連が掲げたSDGs(持続可能な開発目標)の「誰も取り残さない」という基本精神は、私たちの理念と大きく重なるものでした。そこで、生協コープかごしまは、組合員活動と事業を通して、SDGsの目標である「持続可能な社会の実現」に取り組んでいくことを表明します。

目標1. 貧困をなくそう
・ユニセフお年玉募金

目標2. 飢餓をゼロに
・レッドカップキャンペーン

目標3. すべての人に健康と福祉を
・くらしの助け合い活動
・福祉事業の推進
・ピンクリボン運動

目標4. 質の高い教育をみんなに
・組合員活動(学習会、産地工場見学、商品の試食と普及など)
・子育てひろば、子ども研究センターとの取り組み

目標5. ジェンダー平等を実現しよう
・男女共同参画の取り組み

目標6. 安全な水とトイレを世界中に
・コアノンスマイルスクールプロジェクト

目標7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
・始良市に太陽光発電施設設置
・太陽光発電の設置(出水店・かのや店・始良店・かせだ店川内店・国分店・宇宿店・田上店・指宿店・南谷山店)



生協コープかごしま SDGsの取り組み

目標17. パートナースhipで目標を達成しよう
・地域における見守り活動に関する協力協定
・災害時における食糧等物資の供給協力に関する協定
・包括的業務協力協定

目標16. 平和と公正をすべての人に
・平和を守る活動の推進

目標15. 陸の豊かさも守ろう
・NPO法人若草会との「里山」活動
・FSC認証商品の普及
・レインフォレスト・アライアンス認証商品の普及
・産直(産地直結)商品の普及

目標14. 海の豊かさを守ろう
・NPO法人くすの木自然館との「里海」活動
・MSC認証、ASC認証商品の普及
・環境募金

目標13. 気候変動に具体的な対策を
・『2030温室効果ガス削減計画』の実践
・廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料の活用

目標12. つくる責任 つかう責任
・エシカル消費の普及
・買い物袋持ち寄り運動(レジ袋削減)
・リサイクル回収の取り組み
・食品ロスの削減

目標11. 住み続けられるまちづくりを
・地域見守り活動
・被災地支援活動
・くらしの助け合い活動
・買い物支援(移動店舗・買い物送迎)

目標10. 人や国の不平等をなくそう
・フェアトレード商品の普及

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

知っていますか?

SDGs

SDGs(エス・ディー・ジーズ Sustainable Development Goalsの略)とは、世界が抱える課題を解決し、ずっと先の未来まで持続可能な社会をつくるために、2015年9月に国連総会で採択された目標のこと。日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。貧困や飢餓、環境やエネルギー、世界平和、教育、人権など、多岐にわたる分野を網羅する17の目標が掲げられており、先進国・発展途上国に関わらず、世界中の人々が協力して取り組むべき課題や行動計画を示したものです。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも 経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナースhipで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



生協コープかごしま 2030 年ビジョン（長期方針）

つながる力で、豊かな 「地域の食と暮らし」の創造を。

第1の柱

生活者の食と暮らしを守ります

私たちは、この先10年の最優先課題として
事業経営の安定と成長をめざし、
生活者の食と地域の暮らしをしっかりと守ります。

- 事業経営の安定化と成長を図ります。
- 食と健康の取り組みを深化させます。
- 「食の地域内循環」を大切にします。



第2の柱

よりよい組織（生協）をつくります

私たちは、組織の基礎である組合員と職員の
つながりを深め、それぞれがいきいきと
輝ける生協をつくります。

- 組合員誰もが参加しやすい運営のあり方をつくります。
- 職員がやりがいと希望をもてる組織をつくります。
- 事業と組合員活動がつながる仕組みをつくります。
- 地域社会から期待され、感謝される組織をつくります。



第3の柱

“ひらかれた生協”として、地域とつながります

私たちは、「つながる」「ひらかれた」をキーワードに、
生活インフラの一つとして
地域社会になくてはならない存在になります。

- より多くの人と「つながる」生協をつくります。
- 地域社会に「ひらかれた」生協をつくります。
- 自治体とも協力し、持続可能な地域社会づくりに努めます。
- 食・医療福祉・住のつながりを深め、安心できる社会環境をつくります。



第4の柱

「コープSDGs行動宣言」の 活動を進めます

国連が採択した「SDGs（持続可能な開発目標）」
に基づいて、全国の生協がともに確認した
「コープSDGs行動宣言」の活動を推進します。



1. 持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見なおします
目標12（つくる責任つかう責任）



2. 誰もが安心してくらし続けられる
地域社会づくりに参加します
目標11（住み続けられるまちづくりを）



3. 健康づくりの取り組みを広げ、
福祉事業・助け合い活動を進めます
目標3（すべての人に健康と福祉を）



4. 核兵器廃絶と世界平和の実現を
めざす活動を推進します
目標16（平和と公正をすべての人に）



5. 地球温暖化対策を推進し、
再生可能エネルギーを利用・普及します
目標7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）
目標13（気候変動に具体的な対策を）



6. 世界から飢餓や貧困をなくし、
子どもたちを支援する活動を推進します。
目標1（貧困をなくそう）



7. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が
共生できる社会づくりを推進します
目標5（ジェンダー平等を実現しよう）



組合員、職員、地域の皆様と共有し、
よりよい社会とくらしの実現を目指します。

生活者の食と暮らしを守ること

事業経営の安定化と成長を図ります。食と健康の取り組みを深化させます。
食の地域内循環を大切にします。



生協コープかごしまの 品質への取り組み（2024年度）

- 店舗内加工惣菜・水産の製造環境・製造管理の改善を進める取り組みでは、のべ38回の店舗点検・器具検査、商品検査を行いました。
- 取引先工場点検および生協産直センター点検では、生協コープかごしまプライベートブランド（PB）商品の製造先8工場を訪れ、計画的に商品検査を実施し、品質の向上と製造手順、製造環境改善の取り組みを行いました。
- 2,947検体、13,630項目の微生物モニタリング検査を実施しました。
- 仕様書審査・表示審査ともに360件を手順に沿って行いました。
- 日本生活協同組合連合会では、工場点検を1,889件、商品検査を163,946件行っています。

産地や工場見学・商品学習会

生協コープかごしまでは、「産直＝産地直結」を基本方針に、生産者と消費者（組合員）が直接つながり、ともに成長していくために、さまざまな学びの場や交流の機会を設けています。組合員が生産者やメーカーを訪れ、こだわって作っている商品について学ぶ「産地工場見学」、商品のこと、暮らしのこと、社会のことなどを学ぶさまざまな「学習会」がコープではおなじみです。2024年度は産地工場見学到452人が、学習会に1,953人がそれぞれ参加しました。



商品開発を中心にしたいろいろな取り組み

●商品政策委員会

2024年度は年間8回の開催となりました。会のなかでは、法改正、生協コープかごしまやコープ九州事業連合の商品政策、食に関する情勢等を中心に、学習や意見交流を行いながら理解を深めました。現在、商品調達を取り巻く状況は原材料費高騰による製造コストの増加等、非常に厳しいものがありますが、そのような状況下にあって生協コープかごしまとしての商品政策を考える機会となっています。特に「米問題」については月によって情勢が変わり、生協コープかごしまでも数量制限や欠品などの対応について、都度報告しながらお米の現状、政府への要請、備蓄米の放出など報告、協議を進めました。



●商品開発委員会

2024年度オリジナルクリスマスケーキは、鹿児島中央エリア（荒田店）で開発改善委員会を開催し、おせちについては霧島エリア（国分店）、南薩西エリア（かせだ店）の2か所で開発改善委員会を開催しました。昨年度に引き続き、実出席の参加形式で試食や意見交換を実施し、各3回の委員会開催で開発改善に取り組みました。

●協同組合間提携 smile ring商品

生協コープかごしま、Aコープ鹿児島、JA鹿児島県経済連が共同で開発した「smile ring（スマイルリング）商品」では2024年度、新たに「かごしまのお米でつくったこめ粉」と「かごしまミルクバー」の供給を開始したほか、2025年4月からは「かごしまミルクバー抹茶」が登場しました。引き続き、新たな商品開発を進めていきます。



●産直二者認証委員会

農産では2024年度、地元に近い認証委員にお集まりいただき、22産地の認証審査を実施しました。畜産では、昨年度から組合員との交流も交え産直豚、産直黒豚、産直牛、産直若鶏と全ての畜種で実施しました。たまごについては、昨年同様、鳥インフルエンザへの対応として、現地ではなく本部での書類審査に変更し認証審査を行いました。米は有明（なつほのか）、始良（ひのひかり・あきほなみ）、伊佐（ひのひかり）、北さつま（さつま雪もち）の認証審査を行いました。

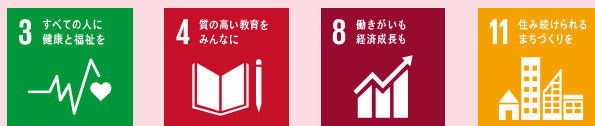
●地域との取り組み

県内高校との取り組みは、指宿商業高校とは「地域貢献」をテーマとした授業の中で、生協コープかごしまの紹介や、同校のイベントに参加し、指宿産のさつまいもを使用した生協の「がね天」を販売するなどの取り組みを行っています。母の日のカーネーションは、鹿屋農業高校と鶴翔高校で取り扱いが進んでいます。生産地域との連携した取り組みとして今年で15年目を迎える「しぶしの夏そば」は、7月期の定着した取り組みとなっています。



よりよい組織（生協）をつくること

組合員誰もが参加しやすい運営の在り方を作ります。職員がやりがいと希望を持てる組織を作ります。事業と組合員活動が繋がる仕組みを作ります。地域社会から期待され感謝される組織をつくります。



くらしの助け合い

「ひとりがみんなのために、みんながひとりのために」が生協の合言葉。誰もが笑顔で安心して暮らすためには、助け合いの精神が不可欠です。生協コープかごしまには、組合員同士が助け合うための仕組みや活動がたくさんあります。



くらしの助け合いの会

1986年(生協コープかごしま15周年)に始まった「くらしの助け合いの会」は、くらしの中の家事援助を中心に、援助を受けたい組合員と、それをお手伝いしたい組合員とが互いに助け合い、支え合う有償活動です。また誰もが気軽に立ち寄れる「おしゃべりひろば」や「ようこそパーティー」なども各店舗で行っています。



介護予防教室「よかよかひろば」

地域の方が楽しく交流する場として、2024年度は毎月1回の「よかよか体操」と「ぼっちゃ」「輪投げ」の運動と「おしゃべりタイム」を5店舗(紫原店・南谷山店・西陵店・城西店・吉野店)で開催し252人の参加がありました。



子育てひろば

赤ちゃんや小さな子ども連れで気軽に参加し、いつ来てもいつ帰っても良い「ノンプログラム」の交流できる場として開催しています。2024年度は20のひろばで、のべ318組、665人が参加しました。

「はじめてばこ」のお届け

2018年からKTSテレビの「はじめてばこ」プレゼントに特別協賛しています。プレゼントをご自宅にお届けするのは、生協コープかごしまの職員です。



文化の継承

さつまお笑い劇場

生協コープかごしまの提供で、毎週日曜日の10時～10時30分、MBCラジオで放送している「さつまお笑い劇場」。日常の出来事をユーモラスに鹿児島弁で表現する「さつま狂句」などを中心に、地域の話し言葉や文化を継承しています。

文化鑑賞会『まい・夢』

『まい・夢(む)』は、心豊かな暮らしをめざして、組合員が毎月の会費を積み立て、年間3～4回の生の舞台(例会)を観る会員制の文化鑑賞会です。企画・運営などは会員自身で行い、自分たちが楽しみながらよりよい芸術文化の継承を行っています。2024年度は、5月に第74回例会「古澤 巖 ヴァイオリンの昼と夜」、9月に鹿児島の音楽家による第75回例会「かごしまの秋 いろどりコンサート」を開催しました。12月の第76回例会「キーウ・クラシック・バレエ〜くるみ割り人形」は、宝山ホールと鹿児島音協の共催企画として開催できました。



2024年12月例会
キーウ・クラシックバレエ

くらしの見直し

ライフプランアドバイザーの資格を持つ組合員によって、暮らしやお金に関するさまざまな取り組みが行われています。また家計の集計登録の試みが長年続けられ、年間誌を発行しています。

LPA

LPA(ライフプランアドバイザー／生協版ファイナンシャルプランナーのこと)の資格を有する組合員メンバーが、ライフプランや生命保険の見直し、自動車保険、火災保険、年金、税金などの学習会を県内各地で実施しています。2024年度は16会場で開催し、154人が参加しました。



学習会の様子

家計簿からみた私たちのくらし

家計簿モニター(集計登録者)から届いた毎月の家計データの集計結果を「家計簿からみた私たちのくらし」として、年に1回発行しています。(2024年の調査世帯数は、のべ1,030世帯)。



消費者被害の防止



鹿児島国際大学での消費生活講座

消費者ネットワークの支援

生協コープかごしまが参加する「NPO法人消費者ネットワークかごしま」は、弁護士や司法書士、消費生活相談員、大学の教員などの法律の専門家や消費者団体等で構成しています。不当な勧誘や契約の差止請求の訴訟が起こせる適格消費者団体(内閣総理大臣認定)の認定を2022年6月に受けました。消費者被害の未然防止・拡大防止のために、事業者への改善の申し入れや、啓発活動を行っています。

2030年ビジョン第3の柱

“ひらかれた生協”として、 地域とつながること

より多くの人と「つながる」生協をつくります。地域社会に「ひらかれた」生協を作ります。
自治体とも協力し、持続可能な地域社会づくりに努めます。
食・医療福祉・住のつながりを深め、安心できる社会環境を作ります。



地域と連携してよりよい社会の実現を目指しています

それぞれの地域の店舗や個配・共同購入のネットワークにおいて、
その地域で暮らす高齢者や子ども、障がいを持つ方など、支援を必要とする方たちの
見守りや自然災害時の地域支援に向けた協定を多くの自治体と結んでいます。

自治体との地域見守り活動の協力協定

生協コープかごしまでは、地域で支援を必要とする方々（高齢者、子ども、障がいを持つ方など）を見守り、
支えていくために、鹿児島県内のいくつかの自治体*や社会福祉協議会と協力協定を結んでいます。

*日置市、薩摩川内市、指宿市、志布志市、曾於市社会福祉協議会、垂水市、霧島市、さつま町、枕崎市、
鹿屋市、出水市、奄美市

災害時の物資供給協力の協定

生協コープかごしまは、災害時の食糧などの物資の供給に関する協定を8行政*と締結しています。

*鹿児島市、霧島市、志布志市、日置市、薩摩川内市、南九州市、始良市、曾於市と締結しています。

包括連携協定

南さつま市と包括連携協定を結んでいますが、新たに2024年11月に志布志市と協定を締結しました。「安心して暮らし続けられる地域社会づくりのために」の実現に向けて、「自然災害における協力」「食の安心、食品の安全」「子育て世代や高齢者及び障がいのある人への支援」などについて連携して取り組むことを確認しました。また南さつま市では協定に基づき、2025年2月から「南さつま市すくすく赤ちゃんおむつ等支給事業」がスタートしました。子育て支援物資のお届けや子育てに関する相談の受け付けなど、事業には加世田センターの職員も携わっています。



お買い物支援

生協コープかごしまでは、買い物に行きたくても行けない、買ったものを持ち帰ることができない、調理をすることが困難など、地域のみなさまの多様化する「食の困りごと」に対して、様々な活動や取り組みを行っています。週に1回、決まった曜日・時間帯にお届けする「個別配達」（お1人でご利用可能。冷蔵・冷凍品は、蓄冷材・ドライアイスと一緒に保冷箱に入れてお届け。配達手数料は週1回、220円。手数料が減額されるサービスがあり）以外にも、以下のような支援を行っています。

移動販売・店舗ふれあい便・地域訪問ふれあい便

生協コープかごしまの移動店舗は薩摩川内市との連携でスタートし、現在薩摩川内市と阿久根市、いちき串木野市の一部で運行しています。またしぶし店でも移動店舗を運行しています。また、麦の芽福祉会の移動店舗（鹿児島市とその近隣を運行）を支援しています。店舗ふれあい便は「お買い物代行」と「お買い上げ配達」の形式で、18店舗（鹿児島市内10店舗、市外8店舗）で活動しています。



川内店の1トン移動店舗車

共同購入を活用した取り組み

地域の社会福祉協議会などと協力し、買い物に困っている地域の方々の声に応じてスタートした公民館配達は、薩摩川内市入来朝陽地区や南大隅町佐多辺塚東地区の公民館のサロン活動に合わせて行われているほか、2025年4月からは新たに、東串良町岩弘地区でもスタートしました。今後もさまざまな地域で進められるよう、調整を行っています。また共同購入の仕組みを利用した、伊佐市大口山野地区の「ミニスーパー山野楽しそう」の商品仕入れ・利用の支援も行っています。



お弁当宅配

管理栄養士監修のもとカロリーや塩分を計算して調理された「体にやさしいお弁当」を日替わりでお届けしています。また、食べやすさで選べる「介護食」や体調に合わせて選べる「健康管理食」もご用意しています。宅配エリアも鹿児島市・日置市・始良市・霧島市・始良郡・鹿屋市・曾於市・曾於郡・肝属郡・志布志市・垂水市・薩摩川内市・いちき串木野市・薩摩郡・出水市・阿久根市・出水郡・伊佐市と広がりました。

お買い物送迎

コープ西陵店・吉野店(社会福祉法人麦の芽福祉会との共同事業)に続き、2025年6月から新たにかせだ店で、NPO法人すだちの会と連携した活動がスタートしました。



離島特販事業

多くの離島を有する鹿児島県。生協コープかごしまでは、離島に住む方々にもコープ商品を利用していただけるよう、鹿児島県内の定期便のある有人離島へ船便で商品を配送する「離島特販事業」を行なっています。



共済事業

共済事業では、妊婦さんが契約者となって、妊娠中のお腹のお子さまを「たすけあい」J1000円コースに加入申し込みできる、誕生前商品の事前申し込み制度が9月からスタートし、3月末現在で144件の申し込み状況です。全国では子どもが「NICU」(新生児集中治療室)への入院となりお役立ちにつながった事例の報告があり、感謝のコメントが寄せられています。

コープフェスタ2024

商品の生産者やメーカーが一堂に会し、商品の試食・販売を行うほか、組合員との交流を目的としているコープフェスタ。2024年度は初の地方開催として、12月にコープかのかや店で開催し大隅地区の生産者やメーカーが多数参加して、販売や試食を通じて、消費者と直接交流を行いました。また、乳牛の生産者を訪ね、牛舎見学やミルク作り体験など酪農交流会も実施しました。



2030年ビジョン第4の柱 「コープSDGs行動宣言」の 活動を進めること

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します。地球温暖化対策を推進し再生可能エネルギーを利用・普及します。世界から飢餓や貧困をなくし子どもたちを支援する活動を推進します。ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します。



6.17 平和のつどい

39回目となった2024年度は、約120人(オンライン・サテライト含む)が参加しました。当時13歳で戦争を体験した語り部から、空襲や当時の暮らしについて話をいただきました。また「沖縄戦跡・基地めぐり」に参加した組合員による報告や、出水戦跡DVDの作成報告・放映も行われました。



長崎平和の旅

日本生協連が企画したピースアクションinナガサキ「長崎平和の旅」は、組合員13名(大人8名こども5名)職員3名、計16名の参加でした。分科会や戦跡めぐりに参加したほか、日本生協連の企画する虹のひろばでは舞台に上がり、かごしまの平和の取り組み、出水戦跡DVDなどを報告しました。9日は原爆投下時間に合わせ、爆心地で祈りの時間を作り、組合員から寄せていただいた千羽鶴を献納しました。



平和学習会

夏休みを中心に、各地域の組合員の集まり(フレンズ)や児童クラブ、コープのお店の協力で、合わせて20ヶ所、約300人の参加がありました。平和学習のDVDや今回新たに作成した出水戦跡DVDなどを貸し出し、平和について考える機会を作りました。子どもたちから「日本は平和だから、いろんなことができてうれしい」などの声が寄せられました。



戦跡DVDの作成

生協コープかごしまでは、県内各地の戦争の記憶(戦跡)を記録に残す取り組みをすすめ、各地域の戦争体験文集を発行しています。2024年度はより多くの人にも知ってもらえるよう、その文集をもとに出水戦跡DVDを作成し、貸し出しを行っています。また公式YouTube上でもご覧いただけます。



募金や被災地への支援活動

1979年の国際児童年から始まった生協のユニセフ募金。1984年から毎年1月にお年玉募金として取り組み、鹿児島県ユニセフ協会を通じて贈呈しています。これまで寄せられた募金額は累計で1億円を超える金額となりました。また平和募金は、誰でも参加できる平和の取り組みとして進めています。生協の平和活動の費用として、鹿児島県原爆被爆者協議会への寄付などに活用されています。また2024年1月1日に発生した能登半島地震の支援では、店舗と個配・共同購入で募金に取り組み、日本生協連を通じて被災地へ贈呈したほか、被災地への職員の派遣や支援物資の提供を行っており、今後も復興に向けた支援を継続していきます。

募金活動(2024年度実績)

●ユニセフお年玉募金 ----- 1,855,430円	●平和募金 ----- 1,811,691円	●能登半島地震募金 ---- 11,467,998円
--------------------------------	---------------------------	-------------------------------



ピンクリボン運動

9～10月のピンクリボン月間に合わせ、コープ化粧品の売上から寄付を行いました。

全国の生協では、認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)「ピンクリボン運動」に賛同し、期間中のすべてのコープ化粧品の売上から1品につき1円を寄付しています。2024年度の募金総額は、全国で1,026,786円となりました。認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)は、すべての人に乳がん検査の必要性を啓発する団体です。乳がんの正しい知識を持っていただくとともに、患者さんとその家族へのサポートを通して、明日の健康な社会を残すことを目標に活動しています。

コープの洗剤環境寄付キャンペーン



日本生協連は、2018年からWWFジャパンを通じ、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農家を支援しています。生産性の低さに悩む小規模農家が、知識・資金不足により農園を拡大するため、さらなる森林破壊が危ぶまれています。そこで、小規模農家の組合を結成、適切な農園管理方法を学び、生産性を高める活動などを実施しています。農家と共に森を守るため、持続可能なパーム油生産を進めていきます。



商品の一例



2025年度キャンペーン期間

2025年5月21日～2026年5月20日(通年)

支援を通してできる活動の例

- 1 保全すべき森を把握するトレーニング
- 2 農家の生計が向上する仕組みづくり
- 3 地方自治体の政策策定支援

取り組み内容

- 1 対象商品1品をお買い求めください
- 2 1品につき0.5円をWWFジャパンに寄付
- 3 持続可能なパーム油の生産などを支援する活動につながります。

2023年度(2023年5月21日～2024年5月20日)全国の生協での寄付金総額

274万9,066円

10月～11月はCO・OP×レッドカップキャンペーン

飢餓に苦しむ子どもたちに、学校給食を届ける活動。



毎朝温かい給食を提供



〈対象商品〉
コープカップヌードル
など15品目



2010年11月よりスタートした取り組みです。「CO・OPコアノンロール」シリーズを1パックご購入いただくごとに1円がユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国に寄付されます。

コアノンロールでアンゴラ共和国の子どもたちに学校を。

コープのトイレトペーパー「コアノンロール」。1パックのご購入につき1円がユニセフに寄付され、アフリカのアンゴラ共和国で「子どもたちにやさしい学校づくり」をする活動として、教師の育成や安全な水の整備、トイレの設置などに使われています。2024年度の取り組みでは全国の生協で17,038,080円の寄付を行いました。

第15期キャンペーン期間 2024年11月1日～2025年10月31日(通年)

アンゴラの子どもの状況

- 5歳未満児の死亡率
----- 出生1,000人あたり69人
- 慢性的な栄養不良に苦しんでいる5歳未満の割合
----- 38%
- 教育を受けていない子どもの割合
----- 5人に1人



Republic of Angola
出典：ユニセフ・アンゴラ事務所
提供資料より

1期からの寄付金総額は1億5,000万円を超えました

対象商品の一例



やわらか
コアノンロール
シングル



やわらかワンタッチ
コアノンシングル



子どもたちが楽しく学べる環境づくり



教師の育成



安全な水の整備

※P16・17の全国の動きについては、日本生協連発行「コープのエシカル2025」より引用しました。

つくる責任つかう責任の例 プラスチック問題のエシカル

プラスチック包材の環境問題に 対応するには？



つくる側



つかう側

プラスチックと
賢く付き合しましょう

リデュース

少なくする
ごみを減らす

リユース

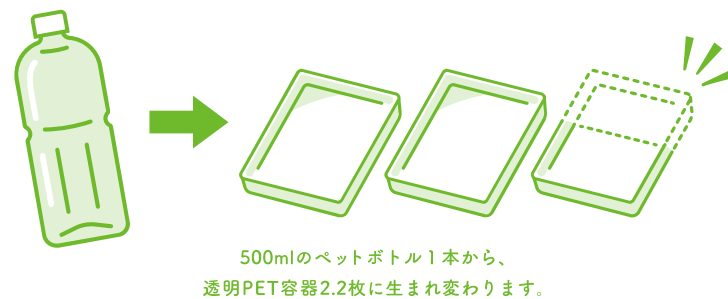
再利用する
繰り返し使用する

リサイクル

再生利用する
なるべく捨てない

● ペットボトル回収機

ペットボトル回収機は、現在鹿児島市内の9店舗(紫原店・谷山店・南谷山店・田上店・西陵店・城西店・荒田店・吉野店・宇宿店)とかのや店の計10店舗で運用しています。キャップとラベルを取り、洗って乾燥させた使用済みのペットボトルを回収機の中に入れると、本来の容積の1/3まで圧縮するだけでなく、ユニセフ募金・環境募金・離島特販運賃基金の中から希望する募金先へ寄付することができます。



● 包装容器等のリサイクルの推進

生協コープかごしまでは、組合員とともに様々なリサイクル活動を行なっています。

店舗にリサイクルコーナーを設け、包装容器や廃食油等を回収。また、共同購入や個配利用の場合は、配達職員がカタログや包装材を回収しています。集められた資源は、リサイクルして再活用されます。

(リサイクル量の推移)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
廃食油 : kl	54	63	70	69	66.2	63.6	59.1	50.8	50.6	57.7
ペットボトル : t	88	90	92	143	100.7	27.6	27.1	23.5	22.1	20.8
アルミ缶 : t	44	42	41	43	82	78.7	75.7	69.6	60.6	52.5
牛乳パック : t	40	40	31	33	33.5	35.2	38.8	37.7	35.8	35.3
発泡トレイ : t	30	29	29	30	22.8	18.7	19.4	23.2	23.9	21.8
たまごパック : t	8	3	3	4	18	17.7	17.7	18.5	19.7	18.7
集品袋 : t	24	24	23	21	21.6	25.2	25.2	23.7	24.0	23.5
カタログ : 10t	137	131	130	134	145.1	139.7	141.5	144.3	141.2	115.7

ペットボトルのリサイクルは2019年10月1日より行政による資源ごみ回収を組合員に呼び掛け、鹿児島市内店舗のみ実施になりました。

● 環境募金

生協コープかごしまでは、「環境募金」として店頭で募金箱を設置しています。組合員の協力で集まった募金(2024年度は385,193円)をお店のリサイクルコーナーの維持管理に使用しています。2024年度は募金の一部を活用し、廃食用油の回収場所を知らせるのぼりを作成しました。



環境募金の贈呈

始良市で干潟を守る活動を行うNPO法人「くすの木自然館」と、日置市で里山「彩葉楽縁(いろはらくえん)」を所有するNPO法人「若草会」に、「環境募金」から贈呈を行いました。



● マイバッグ(買い物袋)持ち寄り運動の更なる推進

レジ袋は石油を原料に使う上、製造時やゴミとして処理する時にCO2を排出します。そこで生協では、買い物の際にマイバッグを持参してもらう「マイバッグ運動」を推進しています。

※2020年6月5日よりレジ袋有料化をスタートしました。2020年度は持参率が26%引き上がり、約470万枚のレジ袋の使用を減らすことができました。これはCO2を286.7kg減らした事になります。2024年度の持参率は前年より0.2%減少しました。



(レジ袋使用枚数、買物袋持参率の推移)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
枚数(万枚)	860	876	873	873	718	247.1	152	162	167	168
持参率(%)	42	50	49.8	51.7	59.3	85.4	84.9	84.1	83.9	83.7

●ろすのんポイント～食品ロスを減らす新しい取り組み

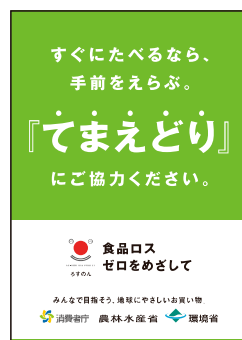
コープのお店では、おもに消費期限管理のため、商品毎に基準を設け、期限が迫っている商品に「値引きシール」を貼り「まだ美味しく利用できる」「早めに召し上がるならこちらを選んでほしい」の気持ちを込めてご案内しています。そのことが廃棄による食品ロスをなくすことにつながります。生協コープかごしまでは、2020年6月から、この「値引きシール」が貼ってある商品をご購入いただくと「ろすのんポイント」を付与しています(1日に1回・組合員カード提示の方のみ)。この「ろすのんポイント」が40ポイントたまると、レジで100円の値引きができる「コープの満点券」を発行しています。



生協コープかごしまは、5省庁(消費者庁・文部科学省・農林水産省・経済産業省・環境省)が推進する「食品ロス削減国民運動」に協力しています。「ろすのん」はそのロゴマークです。

●「てまえどり」運動

生協コープかごしまでは、現在「てまえどり」運動を推進中です。小売店舗が消費者に対して、商品棚の手前にある商品を選ぶ行動を呼びかける取り組みです。食品産業から発生する食品ロス削減のためには、食品事業者(ここでは生協コープかごしま)の食品ロス削減の取組だけでなく、消費者(ここでは組合員)に食品ロス削減へのご理解、ご協力をいただくことが欠かせません。日頃のお買い物の中で、購入してすぐに食べる場合には商品棚の手前にある商品等、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」をおすすめすることで、販売期限が過ぎて廃棄されることによる食品ロスの削減が期待できます。



●温暖化防止自主行動計画と省エネ対策

生協コープかごしまでは、「CO2排出量を2030年までに13年度比50%削減」を目標とし、省エネ効果の高いリーチインショーケース(扉を設けた冷凍冷蔵ケース)やLED照明への切り替えなどを積極的に進めています。太陽光発電施設は始良発電所をはじめ出水店・かのや店・始良店・かせだ店・川内店・国分店・宇宿店・田上店・指宿店・南谷山店と増えており、引き続き「再生可能エネルギー」への転換を進めていきます。



●廃食用油リサイクルの取り組み

2023年度から始動した廃食用油リサイクルの取り組みは、全店に設置された廃食用油回収BOXに集められた油を、始良市にある自前の精製工場でバイオディーゼル燃料(BDF)に精製し、現在は10台の配達トラックの燃料として使用されています。



第54回通常総代会 特別決議

「戦後80年」と「国際協同組合年」の取り組みを学び、平和で安心して暮らし続けられる地域づくりを目指しましょう

2025年は被爆・戦後80年という節目を迎える年になります。私たち生協コープかごしまは設立当初から、スローガンとして「よりよき生活と平和のために」を掲げ、組合員と職員が一緒になって平和について学習し、地域にひろげる活動を続けてきました。近年自衛隊基地新設や拡張、装備強化が行われ、有事を想定した一般港湾空港、民間施設利用など、戦争ができる国への準備が進んでいます。

鹿児島県西之表市にある馬毛島では、自衛隊の訓練拠点として整備が進められています。また南西諸島の防衛強化の一環として奄美大島に2019年、陸上自衛隊の駐屯地が設置されました。さらに、鹿児島県さつま町では、弾薬庫の整備が計画され、環境や有事の際の安全が危惧されています。

一方で、日常生活に関わる予算は削減され、私たちのくらしは物価高騰により脅かされる困難な社会情勢に直面しています。また「食」の問題についても、フードロス、農業・漁業従事者の減少、

食生活の変化など深刻で、なかでも輸入に依存しない食料自給の向上は喫緊の課題です。

2025年は、2012年に続き2度目の「国際協同組合年」です。協同組合の考え方が、平和、貧困、環境などのさまざまな問題解決に向けた持続可能な開発目標(SDGs)に貢献できると国連が評価したからです。私たち協同組合は、相互扶助の精神を活かし、誰一人取り残さない社会を構築する中心的な存在として、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを学習し、地域コミュニティの強化、そして啓発活動を通して、みんなで話し合い、できることから実践し発信することで、協同組合のことを広く知ってもらい、発展させることに取り組みます。

今、協同組合の力が求められる時代を迎えています。これらの課題を地域とともに乗り越え、組合員どうしがつながり、理解を深めながら以下のことに参加することを呼びかけます。

組合員のみなさんに呼びかけます

1

『戦後80年ピースかごしま2025～平和のバトンつなごう未来へ～』の取り組みに関心を持ち、参加して学び、考え、まわりに知らせましょう。

2

「米」「牛乳」「たまご」をはじめとしたコープ商品や産直品、鹿児島で生産される食品について学び利用を広げ、食の地域内循環を高めましょう。

3

協同組合の意義を学び、その価値をまわりに知らせ、広げていきましょう。

以上決議します。

2025年6月18日

生活協同組合コープかごしま第54回通常総代会

「より良い生活を実現するために、お互いに助け合い、声や力を寄せ合う組合員による協同の組織」が生協（生活協同組合）です。

生協コープかごしまは「よりよい生活（くらし）と平和のために」「ひとりがみんなのために みんながひとりのために」をスローガンに、1971年に鹿児島県民生活協同組合（鹿児島県民生協）として誕生した、鹿児島の消費者一人ひとりが手をつなぎあい、自分たちの願いを実現するために作っている自発的な「協同」「助け合い」の組織です。

願いを実現するために、組合員自身がさまざまな取り組みをすすめる組織（集まり）を作り、またより多くの人が参加する取り組み・イベントを組合員自身の活動として準備し、実行しています。

組織概要（事業所等）

※数値は2024年度末のものです。

正 式 名 称	生活協同組合コープかごしま
設 立	1971年4月1日
供 給 高	327億4,306万円
出 資 金	116億7,924万円
組 合 員 数	34万7,760名
職 員 数(約)	一般職員384人、専任フル職員101人、定時・アルバイト1,829人
理 事 長	上城 秀人
事 業 所	●本部：鹿児島市（鹿児島市広木一丁目1番1号） ●共同購入事業所：8センター（鹿児島市2センター、南さつま市、指宿市、鹿屋市、薩摩川内市、姶良市、伊佐市）と4事務所（曾於市、阿久根市、西之表市、奄美市） ●店舗事業：19店（鹿児島市10店、薩摩川内市、指宿市、鹿屋市、南さつま市、志布志市、霧島市、姶良市、出水市、日置市） ●福祉事業：県内3か所（鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市） ●後方施設：産直センター（鹿児島市）、商品検査センター（鹿児島市）

事業内容

- 1. コープ商品と産直品の予約注文配達の「共同購入事業」
- 2. 組合員個人のお宅に直接商品を配達する「個別配達事業」
- 3. 生鮮食品やコープ商品を中心に毎日の食卓の材料を提供する「店舗事業」
- 4. 「小さな掛け金で大きな保障」お互いさまの気持ちで組合員の立場に立って保障する「共済事業」
- 5. 「助け合い」の心を大切に介護支援やヘルパー派遣を実施の「福祉事業」
- 6. 住宅リフォーム、車検、冠婚葬祭等の斡旋、生活全般をお手伝いする「利用事業」および「100円ショップ ザ・ダイソー」ならびに「各種保険」取り扱い（※関連会社（株）コープサービスにおいて展開）

市町村別組織状況

※数値は2024年度末のものです。

